

2012年度第1回(通算第16回)情報知識学会関西部会研究会報告

オープンソースのアーカイブ資料情報管理システムの日本語化と試用

五島敏芳¹

Haruyoshi Gotoh

¹ 京都大学総合博物館

The Kyoto University Museum, Kyoto University

論 題：オープンソースのアーカイブ資料情報
管理システムの日本語化と試用

日 時：9月29日(土) 14時半～17時

会 場：大阪学院大学

発表者：五島敏芳氏(京都大学)

共 催：日本図書館研究会情報組織化研究グル
ープ

出 席：22名

一タ版公表，2010年以降正式版)

これらのうち Archivists' Toolkit (AT) は，日本
で紹介されている (Kelcy ほか 2006)。そこで，
日本では紹介のない Archon を検討することにし
た。

2. オープンソースのアーカイブ資料情 報管理システムの評価

すでに各種のアーカイブ資料情報管理システム
を比較検討している報告書 (Spiro 2009, 同 wiki
版) があり，その比較の項目に沿って前掲4つの
システムの優劣を確認した。

その項目は，つぎのとおり。A. 全般 (7項目)，
B. メタデータインポート [取り込み] / エクスポ
ート [出力] 支援 (17項目)，C. コレクション管
理 (15項目)，D. 資源記述 (12項目)，E. 管理
機能 (6項目)，F. ユーザインターフェース [接触
界面] (8項目)。

ICA-AtoM は，とくに C の領域のコレクション
管理に関して，報告書当時は実装がなく，業務シ
ステムとしての体をなしていない。また，デー
タのインポート・エクスポートの機能が，相当に貧
弱で，既存データを活用できない状況にあった。

AT は，もともと優れているが，web 公開機能
がない。Archon は，web 公開機能とコレクション
管理とをバランスよく備えていた。

なお，オープンソースのシステムは，アーカイ
ブズのコミュニティとの結び付き，ソフトウェア
導入の経費に利点がある。だが，サーバ・ネット
ワーク構築の最低限の知識が必要で，無保証 (問

1. 経緯

かつてアーカイブ資料 (群) の情報をその階層
的構成に沿って電子的に生成し編成し公開するこ
とは，困難とおもわれていた。そのため，資料整
理支援や公開情報検索といった，アーカイブ資料
管理の各部分に対応する情報システムを発展させ
てきた。そのうち，アーカイブ資料管理の部分的
情報システムから，それらを統合するアーカイブ
資料管理情報システムが生まれてきた。いま無償
で利用できるオープンソースのシステムとしては，
つぎの4つをあげることができる。

1) CollectiveAccess (Whirl-i-Gig ほか。2003年開発
開始，2006年オープンソース化，2007年0.5
版公開)

2) Archivists' Toolkit (カリフォルニア大サンディエ
ゴ校図書館・ニューヨーク大図書館ほか。2004
年開発開始，2006年ベータ版，2008年公開版。)

3) Archon (イリノイ大アーバナシャンペーン校図
書館・大学文書館。2003年開発開始，2006年
公開，以降更新)

4) ICA-AtoM (国際文書館評議会 ICA。2008年ベ

題の自力またはコミュニティでの解決) であることは、欠点かもしれない。

3. Archon の日本語化

Archon における英語以外の言語の利用は、閲覧検索画面ではテンプレート、入力編集画面(システム管理画面)では語句ファイルにより実現する。2010年ころから日本語化に取り組みはじめたが、版の更新スピードが速かったため、その影響が大きい語句ファイルの日本語化を優先した。

語句ファイルのデータは、XML形式で、Archonシステムの構成パッケージ毎に存在した。分担作業と、用語の調整・統一との両立のため、Excelの表へ展開し、作業後にXMLへもどした。

4. Archon の試用

Archonは、ブラウザを介して利用する。その動作環境は、Linux, Apache, MySQL, PHP (LAMP)で、いずれもオープンソースの基本ソフトウェア類である。

インストール、アップデートはブラウザから実施する。管理システムの構成パッケージのいくつかを追加選択できる。管理者、収蔵者等のユーザを設定し、必要な場合、別にサーバのディレクトリ等にパスワードを設定する。

資料管理の機能としては、受入から編成整理、検索手段構築、電子図書館(デジタルアーカイブ)までが揃っている。コレクション中の図書資料の書誌データもあつかえる。

資料整理開始前に、関連文献、人名・団体名、話題・術語を蓄積でき、記述データ連動、用語統一には便利である。ただし、人名辞典、用語辞典として独立に利用するには不便である。

検索手段は、基本的に全文表示型で、詳細部分(コンテナリスト、ファイルリスト等)の表示・非表示やPDF等別ファイル参照も設定できる。索引には、アルファベット文字以外の詳細区分(仮名50音、文字画数等)のオプションがない。

デジタルアーカイブシステムとしては、デジタルデータのうち、画像は単純表示で、映像・音は

ダウンロード形式で提供する(ストリーミング機能はない)。デジタルデータは、別サーバでもURLで参照でき、どの記述レベルへも設置できる。

5. まとめ

かつてアーカイブ資料のオンライン総合目録を構想したとき、EAD(Encoded Archival Description)/XMLデータを中心に据えた(五島2008)。これに対し、日本でEADデータはその作成・出力ツールがあっても資料管理実務の生きたデータとならないという反応があった。総合目録や公開デジタルアーカイブシステムは、しばしば手元のデータから出力するだけの一方通行だからである。

オープンソースのアーカイブ資料情報管理システム(とくにArchon)の利用は、生きたデータとEAD等標準データによるアーカイブ資料情報共有・交換をともに実現するのではないか。

参考文献(抄)

- Spiro, Lisa. *Archival Management Software: A Report for CLIR. Council on Library and Information Resources*, 2009, 119p. Online, http://clir.org/pubs/reports/spiro/spiro_Jan13.pdf (Wiki, <http://archivalsoftware.pbworks.com/>)
- Kelcy, Shepherd ; Bradley, D. Westbrook ; Lee, Mandell 他(村井しのぶ 訳)「Archivists' Toolkit: アーカイブズの記述/管理のための統合システム」(小特集: 図書館におけるアーカイブズ)『大学図書館研究』77, 2006-08, p.35-40.
- Archon 公式サイト . URL. <http://www.archon.org/>
- 五島敏芳「日本におけるアーカイブズのオンライン総合目録構築にむけて」『記録と史料』18, 2008-03, p.1-17.
(編集: 田窪直規(近畿大学))